

(様式2)

令和 6 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1595000017		
法人名	社会福祉法人彩のかけはし		
事業所名	グループホームせいろう(2ユニット共通)		
所在地	北蒲原郡聖籠町大夫2204-1		
自己評価作成日	令和6年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.nhlw.go.jp/15/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=1595000017-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.nhlw.go.jp/15/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=1595000017-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県介護福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2-2-2
訪問調査日	令和7年2月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リビングから見える中庭には季節によって、様々な木々が見渡すことができる。りんごや梅の木もあり、入所者の方々と収穫してジュースにしたり、召し上がっていただいている。季節に応じて壁面の飾りも一緒に制作して見て楽しんでもらえるよう工夫して、毎月の行事ごとに写真をまとめて掲載している。コロナ禍以降、徐々に外出や外泊の制限を緩めていたが、現在は感染症対策の依頼はお声掛けさせていただいているが、特に制限なく、ご家族にもご協力いただきながら外出する機会を増やしている。一人ひとりのペースに合わせて居室で過ごされる方や、フロアで新聞を読んだり、気の合うご利用者同士で談笑されたりその方に合った過ごし方で毎日をご過ごしていただいている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### ○地域に根ざした事業所として

事業所は、さまざまに事業を展開する法人が母体の開設21年目の町唯一のグループホームである。地域密着型の事業所として、地域の祭りへの参加や保育園児が訪問し触れ合う機会、運営推進会議には、役場職員、民生委員、利用者、家族の他地域住民の参加もあり地域との関りを大切にした取り組みが行われている。来年度は「認知症カフェ」を事業所で開催する予定もあり、地域に見守られ共に成長して行こうと考えている。

#### ○個別性を重視した支援について

利用者の平均介護度は2となっており、比較的軽度の利用者が中心であるが、入居後徐々に重度化している利用者もあり、状態に合わせた支援がなされている。施設内は自由に行き来でき、ほとんどの利用者は日当たりの良いホールで過ごし、職員と共にそれぞれできる作業に取り組んでいる。

#### ○運営推進会議を活かした取り組みについて

運営推進会議には、利用者、家族の他に多彩なメンバーの出席がある。メンバーからは意見が多く出され、事業所としても貴重な意見は大切と考え職員間で検討し、内容によっては、法人に上げ、判断を仰ぎ支援に繋げるように努めている。事業所は外部評価の調査結果を真摯に受け止めて、一早く運営に取り入れている姿勢は評価したいところである。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目につく箇所に理念を掲示して、職員が共有できるよう努めている。	事業所理念は、何回か職員間で見直しの検討を行ったが、職員が目指す支援の方向性が一番表れている内容であると改めて確認し、現在も掲げ支援にあたっている。各所に掲げており職員のみならず利用者、家族、外来者にも分かりやすい工夫がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や、近隣の保育園との交流、包括主催の認知症カフェへの積極的な参加を行っている。	地域の認知症カフェへの参加、地域の祭りである「大夫祭り」にも利用者と共に参加や近隣の保育園児が事業所に訪問し利用者と触れ合い楽しい時間を過ごす、また、町内会にも入会し自治会として行うシロアリ駆除の対象にもなっている。来年度は事業者が主催の認知症カフェ開催も検討されており地域の中に溶けこみ活動を行っている。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は実施できなかったが、今後は認知症カフェを開催していく予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・役場・包括・地域の方に参加していただき、施設からの報告・意見交換などを行っている。	隔月に開催されている運営推進会議には、家族、民生委員、役場職員、包括職員、近隣住民、利用者と各方面からの出席者がある。事業所からは運営の状況の報告、出席者からは懸念される災害時の対応等の意見など多くの意見が出され会議で検討後、職員間でも検討し運営に反映されるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居の情報のほか、ご利用者についての相談やケアマネ連絡会への参加など協力関係を築くよう取り組んでいる。	役場担当者は毎回運営推進会議に出席し顔が見える関係は築かれている。メールでのやり取りや事務的なことで毎月役場に職員が出向いており相談、助言ももらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ安全のため施錠しているが、研修などを通して身体拘束の意味を理解できるように努め身体拘束を行わないケアを実践できるように努めている。	職員が持ち回りで講師となり身体拘束の研修が行われている。講師を務めることでより深く身体拘束の定義を理解し他職員に伝えることで自身の支援の見返りにもなっている。身体拘束をしないケアは職員全員が理解し支援にあたっている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員に匿名でのアンケートの実施、虐待についての園内研修を行い、日々のご利用者の対応について職員間で情報共有し虐待防止に努めている。	虐待についても、職員が講師となり研修を行い職員は理解に努めている。何気ない言葉かけが虐待に繋がることも理解はされているが、咄嗟に出してしまう言葉かけにも職員間で注意しあうようにしている。また定期的に無記名でのアンケートを実施するなど振り返りの機会を作り虐待防止に繋げている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人・日常生活自立支援事業を利用されている方もいるので職員や他関係機関と連携しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約・改定の際は十分な説明を行い、その他に不明な点や不安な点などいつでも問い合わせを受け付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際に意見や要望を受けることが多く、職員や管理者で相談し運営に反映できるように努めている。	ケアプランの更新時、状態に変化が見られる時には必ず家族に意向を確認している。面会時、受診時にも家族からの意見、要望は聴き取るようにしている。緊急時には電話で確認し、運営に反映されるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談などを通して意見や提案を聞く機会を設けている。普段からコミュニケーションを図るように努め、反映できるように努めている。	職員会議や個人面談のほか毎日のミーティング時、作業中の気づきなどは毎日、職員から意見は出されている。管理者も現場に出ており職員の意見、提案は理解され、随時職員間で検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課で目標設定・自己評価を行い個人面談の場も設けて、やりがいをもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修の他に、資格取得など一人ひとりにあった研修を提案している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修ではグループワークなどを多く取り込んでいて、他事業所の職員と意見を出し合い、サービスの向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを大事にして、またご本人の様子を職員間で話し合いながら安心して生活していただけるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望を十分に伺い、サービス提供している。面会時や電話の際に施設での様子をお伝えしてご家族に安心していただけるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の気持ちを伺い、どのようなサービスが適しているのか、納得いただけるまで一緒に考えながら支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を尊重し、一人ひとりに役割を持っていただき、共に生活できるよう努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者のケアについて相談すると共に、ご家族の思いに対しても配慮しながら、より良い関係が築けるよう心掛けている。	受診に連れて行かれる家族、面会、買い物同行、日用品を届ける、自宅への一時帰宅の支援など、それぞれの家族はできる範囲で支え協力的な家族は多い。事業所としても家族の協力は利用者本人にとっても精神的な安定にも繋がると思え家族の関りを大切にしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	聖籠町や町内行事への参加の他、受診や床屋など行きつけの場所へ通えるよう、ご家族からも協力を頂いている。	友人、知人の面会や希望があれば利用者と一緒に馴染みのスーパーに買い物に出かけたり、昔から通っている理美容室には家族の協力も得ながら関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や毎日の作業等を通じて関わり合いを持つことが出来、孤立しないよう職員も関わりながら支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所となった際は、その後も様子を伺ったり、情報提供しフォローできるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴などの情報収集し、ご家族・ご本の意向・要望に添えるように努めている。	入居前の面談時に本人、家族の意向や心身状態、生活習慣を詳しく確認して、センター方式でアセスメントを実施して介護計画に反映させている。入居後の生活や会話の中から窺える個々の意向や要望を受け入れ、その人らしく生活が送れるように支援している。新しい情報や気づき、ユニット会議での情報を基に定期的にあセスメントを実施し全職員で共有している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時や入所前に、ご本人やご家族、担当のケアマネに情報を伺い、ご本人らしく生活できるよう努めている。	入居前の訪問時に本人、家族から生活歴や馴染みの暮らし、趣味や得意な事などを詳細に確認している。また前任のケアマネージャーや事業所からも在宅での生活の情報提供を受けている。環境の変化に配慮して馴染みの暮らしが送れるように生活環境を整え、本人が望む過ごし方を尊重し、その人らしい暮らしが送れるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報収集、生活パターンを把握し、職員間でも情報共有し、一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行う職員会議でのカンファレンスや必要に応じて担当者が中心となってカンファレンスを行い、介護計画の反映させている。	本人、家族、職員からの意向や意見を確認して、アセスメントを実施しケアマネージャーが中心となり介護計画を作成している。3ヶ月毎に居室担当がモニタリングを実施し、6ヶ月毎に介護計画を見直している。月1回のケース会議で利用者について話し合う機会があり、必要に応じて、その都度カンファレンスを開催し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の様子や変化を記録に残し、職員間で情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向や状況を考慮し、施設として対応できる限りの支援をさせていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事への参加や、床屋・スーパーへの外出などご家族にも協力をいただきながら豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族が希望される機関での受診を基本としています。異変があった際はその都度受診したり指示をいただいている。	本人、家族が希望されるかかりつけ医を尊重している。定期受診は家族対応を基本としている。受診の際は日々の状態を記録した医療連携表を持参して主治医と連携を図っている。看護師の職員もおり、医療面での助言や相談や専門医への受診支援、24時間オンコール対応も整備されている。薬剤師さんからの支援もあり、安心できる適切な医療連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護師と連絡が取れ、些細な変化でもすぐに相談できる体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院の看護師や相談員へ速やかに情報提供を行い、ご利用者やご家族に安心していただけるよう、支援している。退院時もスムーズに施設に戻れるように病院関係者との関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約時にも説明し同意書もいただいているが、重度化した際にはご家族と話し合いの場を設け、現在看取りを行っていないため十分に説明を行い、関係者と支援に取り組んでいる。	入居時に「重度化対応、終末期ケアの対応方針」について説明し同意を得ている。看取りケアは行う方針はなく、本人、家族、医療、職員との協力体制を図りながら、継続的な医療が必要な場合や身体的な変化が見られた場合は、本人、家族の思いを受け入れ、話し合いの場を設けて、本人の状態に応じた病院や施設入所への推進を支援して、安心に繋がる協力体制を整えている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師により研修を行い、救命救急講習も受講している。	事業所の内部研修で担当職員が中心となり、急変時や事故発生時について学んでいる。マニュアルや症状別緊急時対応一覧が整備され目のつく場所に置いてある。AEDの講習も全職員が参加して修得している。看護師により観察ポイントや対応の研修を行い、緊急時に備えている。また救急隊へ速やかに情報提供できるように救急連絡シートも整備され、利用者の安全を確保している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼・夜夜間想定で避難訓練を実施し、自然災害時のBCPも策定している。	事業所の防火管理者が避難訓練を計画し、年2回昼夜を想定し避難訓練を利用者と一緒を実施している。マニュアルの整備、避難場所、通報訓練を実施し避難出来る方法を全職員は修得している。今年度は地震、水害、災害等の訓練も実施予定である。非常食や備品、利用者情報も整備されおり、ユニット同士の緊急時の連携体制も整備されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについて研修も実施し、一人ひとりの人格や誇りを損ねない声掛けや対応に努めている。	事業所の内部研修で定期的に研修を実施し、プライバシー保護や接遇について学んでいる。一人ひとりに合った言葉かけや日々の対応にもプライバシーを損ねない関わりを意識している。不適切な対応時には注意し合ったり、無記名でアンケートを記入し、振り返りを行い、全職員が尊重した対応が出来るように心掛けている。日々の記録や利用者情報の管理も責任ある取り扱いを実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方にはいくつか選択しを提案させていただいて、ご自分で自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの過ごし方をその時々気分や体調などを考慮して、ご自分のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や好みなど、その方に合ったものを選んでいただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付けなど皆さんと一緒に協力して行っている。月に一度、お弁当を頼んだりいつもと違う食事を提供している。	法人内で統一した献立となっている。管理栄養士が定期的に訪問して栄養管理の相談、助言もある。給食委員が食材を発注している。月1回は特別食や行事食を企画して食事を楽しめる工夫も行われている。テーブル拭き、茶碗拭き、野菜を切るなど、個々の出来る能力を活かしながら職員とともに楽しく食事が出来る雰囲気醸し出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に定期的に相談し、個々に応じた刻みやトロミなど対応している。食事量・水分量も記録し情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる範囲はやっていただいて、できないところのみ声掛けやみまもり、必要に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせて、定期的に声掛けや見守り、介助を行っている。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握している。さりげない声かけや時間誘導には細やかな支援と羞恥心にも配慮して適切な支援が出来るように全職員は統一した排泄ケアを修得して自立に向けた支援を行っている。トイレの場所も分かりやすいように、案内板を手作りするなどの工夫がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師に相談しながら、水分量の把握や歩行訓練を兼ねた運動などを行い個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や希望を考慮して、気持ちよく入浴していただけるように支援している。	週3回、午前中の中の入浴を基本としている。浴室内の適切な空調管理や福祉用具も整備され安心して入浴が出来る環境である。入浴の順番や同性介助にも配慮されている。個別対応なので寛いだ気分でゆっくりとお話ししながらの入浴となっている。菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤など季節の変わり湯を楽しむ取り組みも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度管理や、季節に合った寝具で気持ちよく眠れるように支援している。日中休まれる方もいて、一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病状や病歴などの把握に努め、すぐに薬の確認をできるようにしている。何かあった際には、すぐに看護師や調剤薬局、病院に連絡をして指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常作業にそれぞれの役割を持ち、外出や嗜好品の差し入れなどご家族にも協力をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブなど季節に合わせた外出の機会ができるように努めている。ご家族にもご協力をいただきながら、外出する機会を増やせるように努めている。	行事委員会が年間行事を作成している。季節のドライブ、花見、地域の祭りなど外出する機会を企画している天気の良い日はテラスで日向ぼっこしたり、散歩に出かけたりと外の空気に触れるようにしている。事業所内で出来る季節の行事や季節毎の作品を職員と一緒に作成し壁面に飾り、楽しい時間を過ごしている。外出時の様子や日々の生活の様子を写真に撮り、コメントや気付きを記入して広報に載せ家族にも郵送している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持に関しては入所の際に金庫でお預かりしており、外出や買い物に行った際にお支払いしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持されて個々にご家族と連絡とられている方もいて、ご本人の希望や状況に合わせて連絡がとれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計を設置して快適に過ごせるように努めている。フロアや通路には季節ごとに飾りをかえており、行事の写真なども掲載して見て楽しんでいただけるような工夫をしている。	共有空間は明るく、小上がりの畳の部屋があり広い空間となっている。フロアの壁面には利用者と共に創った季節の作品や写真が飾られ楽しめるようになっている。所々に椅子を置き一人ひとりが好きな場所で寛げる空間となっている。フロア内は体感温度に合わせた空調となっており、また、常に職員が居てお話ししたり見守ったりと目配り気配りがあり、安心して過ごせる生活の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ自席やフロアのイス・居室など好きな場所で過ごされ、ご利用者同士お話しをされたり個々のペースで過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際にご家族やご本人と相談して、使い慣れた物をご自宅から持ってきていただいて、居心地よく過ごせていただけるよう努めている。また入所後も相談しながら配置を決めている。	馴染みの物の持ち込みは自由であり、本人、家族の意向を大切にしている。居室にはベッド、洗面所、押入れが設置してあり、自宅で使い慣れた物を置くことで安心して繋がる物を持ち込まれている。シーツ交換や部屋の掃除は個々の能力を活かしながら、職員と一緒に、自立した生活が送れるように支援している。部屋の前には果物の写真や名前を下げ自分の部屋である事を意識できる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやネームプレートを設置して、必要に応じて居室の扉に張り紙等をして、一人ひとりに合わせて安全に過ごしていただけるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				